

## 2023年度 上期 関西・以西ブロック会議報告

- (1) 7/31～8/1、兵庫県豊岡市のたじま農業協同組合本店にて 17 産地 39 名、豊岡市 4 名、パルシステムグループ 26 名、総勢 68 名の参加により、4 年ぶりの実開催となりました。豊岡市コウノトリ共生部、コウノトリ育むお米生産部会、たじま農業協同組合営農生産部水田農業振興課の協力のもと「ローカル SDGs でもっといい明日へ超えてく！～共生と調和による持続可能な地域づくり～」をテーマに行われました。
- (2) 西野副ブロック長の進行により、パルシステム生産者・消費者協議会の小川代表幹事の挨拶により開会され、たじま農業協同組合の西谷常務理事、豊岡市西上副市長から受け入れ産地挨拶をしていただきました。
- (3) ブロック会議役員紹介では、澤村ブロック長、西野・宇都宮両副ブロック長より一言、挨拶をいただき、澤村ブロック長からは「JA と行政と一緒に物事に取り組むことは農業をする上で理想である。」「今回の会議では学ぶこと、聞くこと、見ることを通して充実した勉強会にしていきたい。」と呼びかけられました。
- (4) 生消協、パルシステムグループによる方針および実績説明後、受入団体報告では、豊岡市コウノトリ共生部山本参事よりコウノトリ野生復帰の取り組みやオーガニックビレッジの取り組みについて、コウノトリ育むお米生産部会村田部会長よりコウノトリ育む農法への取り組みについて、たじま農業協同組合伊澤係長よりコウノトリ育むお米部会の取り組みや持続可能な取り組みに向けての報告がされました。
- (5) 質疑応答および意見交換では、コウノトリ育むお米生産部会やたじま農業協同組合、各産地の取り組みをもとに「地域の課題解決と環境共生の地域づくり」や「地域ビジョンを描き、誰もが当事者になるためには」をテーマに活発な意見交換が交わされ、「三位一体の普及に伴う財政支援について」「三位一体に至るまでの経緯について」「無農薬栽培について」「深水の管理や除草の仕方について」等様々な意見がありました。
- (6) 続いて、小谷消費者幹事より、「コウノトリの人工繁殖に至るまでたくさんの苦労があったと思う。三位一体となり市と県、JA が地域を盛り上げていることが珍しいことで、お米をただ売るのではなく、見せ方や取り組みを組合員に工夫して伝えているパルシステムも素晴らしい。」と話され、9月に開催される若手生産者交流会の案内と澤村ブロック長よりブロック会議1日目のまとめがされ、閉会となりました。
- (7) 翌日の圃場視察では、坪口農事未来研究所、平峰取締役事業部長より坪口農事未来研究所の概要と水稻事業の取り組みについて、コウノトリ育む農法へのこだわりについて、有機 JAS 認証への取り組みについて等の報告がありました。「病気で亡くなる人が多くなっている、食べ物も一つ要因となっていると考え、環境にやさしい、農薬を使わない作物を作ろう。」「あるところでは自分たちで食べる作物とそれ以外が別になっていることや農薬の使い方を見てきて、もっと自分たちに出来ることや本来のあり方を考える必要がある。」という思いから、現在の取り組みを始めるきっかけになったとお話をいただきました。その後、豊岡市立コウノトリ文化会館に移動し、動画鑑賞、施設見学を行いました。
- (8) 視察後、椎名関東・中部副ブロック長より、「行政と生産者、JA の3つが協力し合っている点はとても勉強になった。2日間の会議での気づきを生産者や家族へ伝える必要がある。」といただき、今田消費者幹事より、「様々な取り組みがあり、学校給食にコウノトリ米を使用していることは全国的に広がる夢のある取り組みだと思う。農法にもこだわりがあり、現地参加できてよかった。帰ったら組合員に伝えたい。」とまとめられ、澤村ブロック長より、「2日間を振り返って、自分たちの地域に持ち帰り、何ができるのかを考える必要がある。意識するか、しないかで今後の農業への取り組みが変わってくる。消費者側の意見を実際に聞くことができる利点もある会議である。」と話され、閉会となりました。

